

2011 年度（平成 23 年度）

事業計画



学校法人 クラーク学園

目 次

	ページ
○ クラーク学園の基本構想	3
○ クラーク学園和泉短期大学の基本構想	4
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	8
3. 専 攻 科	11
4. キリスト教活動	12
5. 施設・設備経費関係	15



クラーク学園の基本構想

Make a fresh start ~ 新たなる出発 ~

クラーク学園 スクールモットー

— 愛と奉仕 —
love and service

- 隣人を自分のように愛しなさい — マタイによる福音書 22章 39節
- わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。 — ヨハネによる福音書 4章 14節

ミッションステートメント(要約)

クラーク学園は、キリスト教の精神に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「愛を実践する専門家」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「ユニバーサルサービス」の達成をめざし、教え合い学び合う「開かれた教育共同体」の形成を遂行していきます。

教育実践の心構え

MISSION

使命を確認し、責任を自覚する。

PASSION

業務を、熱意と誠実をもって行動する。

ACTION

更なる進展、向上に向けて行動する。

教育目標

和泉短期大学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としています

- ① キリストの愛の教えを基盤とし、保育・福祉専門職として人権を尊重する人
- ② さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人
- ③ 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する人

自らの将来の姿として、上記の考えに賛同し、積極的に学びに励もうとする意思のある人々を私たちは歓迎します。

歴史

学校法人クラーク学園の起源は、CCF (Christian Children's Fund, Inc.) 運動による。それは、創始者カルビット・クラーク博士の戦災で苦しむ子どものために、献身するビジョンが、他の人に伝わり、それが連鎖的に次々にひろがり、国境を越え、世界の子どもの幸福のために働く愛の共同体として活動を続けている。

学園の起点は、1956年(昭和31年)4月、米国CCFによって設立された社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念養成所にさかのぼる。第二次世界大戦後、わが国の困窮している人々を救済したララ物資配分責任者バット博士によって、ミルス博士を通して、わが国へのCCF援助の懇請によって実現した。児童福祉施設の子どもへの経済的援助のみでなく、そこに働く職員の資質向上こそ根本的急務であるというCCFおよび援助施設よりの要請によって、実験的モデル施設と訓練講習会の開催のためにバット博士記念センターが開設された。子どもにとって楽しい明るいホームと人材育成の福祉事業が車の両輪のようなものである。

学園は、急激に変化する社会において、ある時は先駆的に、また社会からの求めに応じ、バット博士記念養成所から玉川保母専門学院、和泉短期大学、和泉福祉専門学校を生み育ててきた。学園の創立と共に、ヨハネ福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」との標語を掲げ、建学の精神「愛と奉仕」のもとで教育事業が実施された。

クラーク学園和泉短期大学の基本構想

－2011年度－

建学の精神であるキリスト
教信仰の一層の具体化

学生にとり
居心地の良い明るいキャンパス

学生の学習力の向上
施設整備を含めて

大学を取り巻く環境

18才人口の減少 受験生対策	大学進学率		大学の 経営赤字	大学の中退者・進路変更	短大進学者の 減少
	大学	短大			
1990年 201万人 2010年 122万人	1990年 24% 2010年 51%	12% 6%	大学 40% 短大 60%	8人に1人 質の低下(経済的理由、学習意欲の 喪失、不本意入学、人間関係)	専門学校への 進学者増加

今年度の努力目標

<p>I 地域密着の短期大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元高校の校長・代表者との懇談会、学校訪問 ・講義の出前 ・中退者の予防(学習指導クラスの tutor の新設) ・創立50周年記念事業 (礼拝・ステンドグラス完成記念展示会、和泉短大の紹介・説明コーナー) ・教育支援プログラム(はっぴいの支援) ・更なる奨学金の充実→規程化 	<p>III-1 専門学校校舎(5号館)の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一部を外部に貸す(専攻科の実習室) ②認定子ども園に使用 ③売却する <p>III-2 グラウンド 8,680 平方メートル(2,630 坪)</p> <p>6億44百万円－市街化調整区域…将来計画(見通し)</p> <p>III-3 専攻科の講義を1～4号館にて行う</p>
<p>II 教育と研究の一層の充実 ー教育力の充実ー</p> <p>学生の学びの姿勢の確立(指導、入学前講義の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生の出欠の機能化パスモ、スイカ(学生カード) ②文科省による教育・研究支援補助 ③学習支援のための学内施設・教材整備、人材の確保 ④キャリアデザイン・センター 教育・研究装置(E・M・L)設置 ⑤専攻科の一層の充実 短大生の専攻科進学の際の入学金免除 ⑥2号館(研究棟)、学生食堂の整備(塗装) 	<p>IV その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教職員の人事管理(職員のチャレンジシート導入) ②土地・建物・グラウンドの使用規程の整備、見直し ③学納金の延納制度 ④学生のクラブ活動支援(ユニホーム、遠征費) ⑤学生のボランティア活動 ⑥社会福祉法人バット博士記念ホームと特定非営利法人チャイルド・ファンド・ジャパン、学校法人クラーク学園との協力関係の再確認 ⑦スクールバス駐車場の土地確保

タスク・フォース プロジェクト・チーム

- ①キャリア・デザイン委員会 (CD委員会)
- ②ステンド・グラス完成記念事業委員会
- ③文部科学省「大学生の就職力育成支援授業」
- ④危機管理委員「マニュアル整備」

Deep dive. presentation(企画)

Brown-bag meeting(free talking)

1. 法 人

2011年度クラーク学園の事業計画

理事長 深 町 正 信

現代は世界的先行き不安の状況の中で、食の安全、金融の安全、子どもの生命の安全、環境の安全等が大きな問題となっています。他方、新しい産業、技術を育てようということで、国と民間において様々な規制緩和が行われています。国と国との貿易振興のために、事由貿易協定が二国間、或いは、多国間でも行われています。要するに、新しい、活力ある日本の国造りが大いに叫ばれています。

2011年度（平成23年度）は相変わらず短期大学、大学を取り巻く環境が内外ともに厳しく、多くの課題を抱えている厳しい状況です。18歳人口は1990年が約201万人でしたが、2010年には約122万人に減少しています。一方で大学進学率は1990年に24%でしたが、2010年は51%に増加しています。現在では大学数、短期大学を含み1,173校ですが、受験者数は69万人とされています。所謂、受験生の大学全入時代を迎えています。その結果、大学の40%、短期大学の60%が大学の経営赤字を抱えて苦勞しています。特に、短期大学への進学者が減少し、専門学校への進学者が急激に増加しています。幸いにも、和泉短期大学と同専攻科は多くの方々の理解と協力のもとに入学定員を満たすことができたことは感謝であります。

クラーク学園和泉短期大学の基本方針は変わらず、1) 建学の精神であるキリスト教信仰の一層の具体化、2) 学生にとり、居心地良い明るいキャンパス、3) 学生の学習力の向上と施設の整備、であります。

和泉短期大学は昨年と同様に、相模原市にある大学として、地域密着の短期大学を目指し、地元の高等学校の一層の理解と協力を得て、又、地域の住民に愛され、よい高校生を送っていただけるようにと願っています。そのために、従来のように、高校校長、進学指導の先生、生徒を送ってくださった高校との連絡を密にして、情報交換をしてゆきたいと計画しています。また、講義の出前、入学前の学びの準備、グループアドバイザー制を有効に実施してまいります。特に、2011年度は学生の出欠を機能化し、パスモ、スイカにより機能化し、学生の講義への集中をはかります。更に、ラーニング・センターを設置し、また、学生の音楽力を高めるためにEMLという音楽装置を設置する予定です。

特に、本学に学ぶ学生が将来よりよい職業人となるために専攻科を一層充実させ、保育士のみならず、介護福祉士の資格をもって、将来、よき働きができるようにと願っています。このために、学生の負担を少しでも軽減するために、本短大生の専攻科進学の際の入学金を免除することにします。又、学生の学納金の延納制度を実施しています。

更に、校舎の整備、特に、キャリアデザインセンターの新設に取り組み、学内の一層の充実を計り、

学生が居心地のよい教育環境を整備したいと願っています。最近は大大学とも中途退学者、進路変更をする者が多く、8人に1人と言われています。この原因は大学全入時代を迎えて、本来大学に入るのが難しい者が入学してきていること、学習意欲の喪失、不本意入学、人間関係のトラブル、経済的不安定等の理由によるものと考えられます。これらに対応するために、新たに教員を採用し、また、学生への指導をきめ細かく実施してゆきたいと願っている。

今年度からは専攻科の講義、授業を1号館から4号館で実施し、5号館は外部に貸し出すか、認定子ども園を作るか、慎重に検討し、交渉しているところです。短期大学の経営を少しでも「出るを制し、入るを計る」ために、現在の校舎、グラウンド、建物、その他を外部に貸し出すことにより、使用料を得るため、外部貸出使用規定を見直し、特に、貸出料金の見直しをしました。

創立50周年記念事業のクラーク・ホールに設置された10枚のステンド・グラスの完成を記念して、和泉短期大学の宣伝を含め、銀座においてイベントを計画しています。

今年度は短期大学の学生のクラブ活動の積極的支援、社会奉仕活動の支援、そして、社会福祉法人バット博士記念ホームと特定非営利法人チャイルド・ファンド・ジャパンとの協力関係を構築したいと考えています。

短期大学には、四つのタスク・フォースが作られますが、1) キャリア・デザイン(CD委員会)、2) ステンド・グラス完成記念展示会委員会、3) 文科省「大学生の就職力育成支援事業」、4) 危機管理委員会「マニュアル整備」これらが教職員良く協力して、しっかりとした企画をたて、(Deep dive)そして、自由な意見交換の中で、更なる良き研究がなされ、それらが実際に学生への教育の力となることを期待したいと願っている。

それには健全経営をなし、消費収支計算書を重視し、出来るだけ単年度の赤字を出さないようにし、決して投機的な投資をせず、会計監事の了解のもとに、理事会、評議員会の承認を得て、今年度も事業を推進してまいりたいと願っていますので、皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

結びに、豊福義彦特任教授、原田康子教授、佐藤公啓事務局長、今野和隆学術情報ユニットリーダー、実習・ボランティアセンター野尻美枝助教が退任されますが、永年のお働きに感謝するとともに、主のみ恵みを祈ります。

2011年度主な事業計画（施設・設備）

○短期大学

1) ステンドグラス2箇所設置	3, 192千円
2) CDセンター改修	6, 776千円
3) 電気設備関連	972千円
4) 研究室空調設備工事	8, 868千円
5) 2号館トイレ改修工事	12, 804千円
6) 地上デジタル放送対応アンテナ設置	311千円
7) 出席管理サーバー、ハンディリーダー	1, 870千円
8) 教室用プロジェクター（4教室）	3, 154千円

(1) 学事予定

○理事会

2011年 5月21日（土）理事会（決算）	於：和泉短期大学
2011年 10月21日（金）理事会	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2012年 3月22日（木）理事会（予算）	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○評議員会

2011年 5月21日（土）評議員会（決算）	於：和泉短期大学
2011年 10月21日（金）評議員会	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2012年 3月22日（木）評議員会（予算）	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○学内運営協議会

□出席者：理事長、学長、事務局長、教務部長、事務局次長、庶務ユニットリーダー

2011年 4月6日（水）、4月13日（水）、4月20日（水）、4月27日（水）、
5月11日（水）、5月18日（水）、5月25日（水）、6月1日（水）、6月8日（水）、
6月15日（水）、6月22日（水）、6月29日（水）、7月6日（水）、7月13日
（水）、7月20日（水）、7月27日（水）、9月7日（水）、9月14日（水）、9月
21日（水）、9月28日（水）、10月5日（水）、10月12日（水）、10月19日（水）、
10月26日（水）、11月2日（水）、11月9日（水）、11月16日（水）、11月30
日（水）、12月7日（水）、12月14日（水）、12月21日（水）
2012年 1月11日（水）、1月18日（水）、1月25日（水）、2月1日（水）、2月8日（水）、
2月15日（水）、2月22日（水）、2月29日（水）、3月7日（水）、3月14日（水）

○学園行事

2011年 11月28日（月）	クリスマスツリー点火祭
12月10日（土）	クリスマス・コンサート

2. 短期大学

2011年度 和泉短期大学事業計画

学長 伊藤忠彦

本学は2011年度も、建学の精神を基とし、神より託されたこの教育事業を使命をもって、神の祝福を願い、祈りつつ取り組み実施して行きたい。

2010年4月に、介護福祉士養成の専攻科を発足させ、一期生27名は、1名の退学者があったものの、概ね順調に開校初年度の学びを終え卒業、就職の予定である。

2011年度の専攻科学生の募集は、まだ終わっていないが、既に23名（定員20名）が入学手続きを終え、次年度は、更に充実した教育内容で教学を進めてゆくつもりである。

2011年度は保育士養成課程の大幅な改定がおこなわれるが、本学はこの改定に応えるために必要な準備をほぼ終え、新年度を迎えることができることは幸いである。

1) 教職員体制

専任教員21名<専攻科3名>（前年比-1）学長、教授3名（-1）、特任教授3名（+1）、准教授10名（+3）、専任講師2名（-2）、助教3名（-1）、非常勤講師43名（-4）、事務職員23名（±0）（契約1名、嘱託1名、パート7名）の体制で事業が進められる予定である。）

2) 2011年度学生数

短期大学：2年生283名（+43） 1年生295名（±0） 専攻科：23名（±0）で始めることができる見通しとなった。

3) 学生生活の向上にむけての支援

i) 入学前教育の充実

本学への入学を許可された者に、入学前に行うピアノレッスン、コミュニケーションスキル等の教育を、次年度も、新入生がモチベーションをもち、安心して本学の学生生活に入れるよう、これまでのプログラムを検証して実施して行きたい。

ii) 保護者との連携

新しい試みとして、2010年より年2回、学期終了後、学生と保護者に成績一覧表を出し、学生の生活状況の一部ではあるが、授業出席状況、各教科の成績、成績の順位等の学業状況を理解いただき、学生が学業としての学生生活にできるだけ専心できるよう協力いただく為である。次年度も、これを実施する予定である。

iii) 退学、休学、留年、除籍学生の増加状況の改善への取り組み

増加しつつある学生の退学、休学等の改善に向けて、要因の調査と分析、高等学校との情報交換、グループアドバイザーを中心とした教職員のサポート体制の強化、現行の入試方法の点検、更なる奨学金の制度の充実等を図って行きたい。

iv) FD&SD（ファカルティ&スタッフ）の強化

学生の授業評価を受け、教員の教育力向上に向けた努力、また全教職員は真摯なまた、ホスピタリティーをもった学生支援に努めたい。

4) 自己点検評価の実施

1996年以来、短期大学の質の保証と向上を目指し、実施してきた自己点検自己評価を実施し、教育、研究・学生支援、財政等の改善に努めたい。

5) 文科省公募プログラムへの挑戦

2009年度には、取組名称「学生と卒業生による学びの循環の場『和泉コミュニティ』の形成」が採択され、予定の事業を無事この3月で終える予定である。

また、2010年度には、再び新たに、名称「保育就業力向上推進プログラム」が採択され、5年間の助成金を得て、このプログラム（事業）に着手できたことは、本学にとって大きな喜びである。2011年度は、この事業の2年目でもあり、この事業を軌道に乗せ、その成果を報告できるようにしたい。

また、2011年度も、新たな公募プログラムに応募できればと願い、教授会に図り、委員会を発足させる予定である。

6) 保育者養成校として本学が直面している諸問題への取り組み

政権交代によって、2010年、新政権のもと「幼稚園教諭養成」の新しい提案、また保育現場である幼稚園、保育所における「幼保一体化」「子ども園」構想等、本学のこれまでの態勢を大きく左右すると予想される教育改革案は決まらず、尚、迷走状態にある。しかし、政府の動向に注視し、保育者養成校、また幼稚園、保育園との関係を密にし、確かな情報を得るように努め、早急に対応する態勢を維持して行くつもりである。

7) 法人将来検討委員会、並びに大学作業部会の継続

上記、6)で取り上げた保育養成校の直面する早急の課題への取り組みのためにも、将来検討委員会を定期的で開催し、短期大学の将来のグランド・デザインの策定、専門学校建物の活用、情報の収集・調査、討議を継続し、必用なプランを推進して行く所存である。

8) 学生及び卒業生の保育就業力向上への本学の取り組み

i) 保育就業力育成センター（キャリアデザインセンター）の設置と新たな活動

文科省公募プログラム実施の一環として、2011年4月より発足させ、保育力、また保育就業力育成センターとして、2名のセンター非常勤教員を配置し、学生のキャリア・ファイルの作成の指導、相談にあたる。

ii) 夏期リカレント講座開催の実施

2011年度は、保育現場で働く卒業生等に向けて、8月5日（金）本学の教員を中心とした講演と対話、ワークショップを加えて実施予定である。

9) 一層の入試・広報の改善と高等学校との連携の強化

2011年度も、昨年度に続き、2010年度の入試実施の成果を検証し、広報活動、並びに高等学校との連携の一層の強化（福祉・保育・幼児教育を目指す高校生への働きかけ等）に努めて行きたい。

10) 奨学金制度の充実並びに教育ローンの紹介等による学生支援

経済の悪化にともなう、経済的困難にある学生の増加に対応し、次年度は、新たに、同窓会に奨学金を設けていただき、父母会奨学金もこれまで貸与だった奨学金を給付型奨学金としていただくことになるなど、同窓会・父母会の力添えをいただいて新たな年度を迎えることができることは感謝である。

また、大学も基金の限界がある中で、一人でも多くの学生が奨学金に与れようとして支援してゆくつもりである。

1 1) 就職・進学、並びに進路指導の一層の充実

2011年度は2年生を対象に、進路支援講座が16回(4月から8月までで10回、9月から2月まで6回)具体的なテーマ(求められる人物像、自己PRと志望動機、施設訪問と実習におけるマナー、卒業生を招いての就職懇談会)等で学び、自信をもって就職・進学先の開拓に臨めるよう指導して行きたい。

1 2) 教職員間の更なる協力の必要性

本学の教育の本分を十分に発揮するため、また直面している種々の危機回避、克服のために、教職員間の信頼と教職員相互の協力を努力して行きたい。

1 3) クラーク学園50周年事業チャペルのステンドグラスの完成と披露

クラークホールの東西の高窓に設置される予定で製作が進められてきた10枚のステンドグラスは、2011年の秋、残りの2枚の製作と取り付けを終え、事業を終える予定である。この完成を祝い、学生・教職員の感謝礼拝を行うとともに、法人クラーク学園は、完成記念の式典と披露を法人発足に関わりのあった銀座教会の1階ギャラリーを会場に、披露の行事を12月6日(火)～11日(日)の6日間の予定で準備が進められている。

1 4) 和泉短期大学父母会

2001年度も年、会報発行、奨学金による学生支援、和泉祭参加、保護者関係の葬儀での献花、卒業式のガウン貸し出しと保管・父母会総会(入学式時)の父母懇親会開催、役員会、また、2011年度は、ステンドグラス完成披露行事に協力いただく等、次年度も2011年度生の父母役員を加え、学校へのご協力をいただいています。(担当部署：学生支援ユニット)

1 5) 同窓会いずみ

同窓会は、2010年3月をもって閉校となった和泉福祉専門学校の卒業生(同窓会「喜楽」2000名)を加え、12000名を会員とする同窓会となった。2011年は、新に2010年度卒業生を加え、2011年度も、総会&茶話会、和泉祭～いずみのひろっぱ～開催、会報「いずみ」発行、在学生への奨学金支援、本学のホームページの「同窓会からのお知らせ」「掲示板」の運用、またステンドグラス完成披露の行事にも協力いただく予定です。また、本学と同窓生、また同窓生間の交流や情報発信の働きを担っていただき、同窓会長には卒業式・入学式等でご挨拶をいただいています。(事務所：2号館1階)

1 6) 後援会

2011年度も、「和泉短期大学の発展に寄与し、父母会活動を支援し、また相互修養と交流を図ることを目的」の下に、ほぼ同じ体制でご支援いただけるとのことで感謝している。「後援会便り」の発行、「いずみ祭」参加、役員の方の牧師先生方のチャペルでのご奉仕等、ご支援いただく予定です。(担当部署：学生支援ユニット)

3. 専攻科

2011年度介護福祉専攻科の事業計画

当初、介護福祉士の国家試験が2012年度から一元化の予定であったが、2011年1月の検討会では、3年延期となった。今後、カリキュラムの変更が必須であるため、動向を見守り、迅速に対応していきたい。

今年度の入学者は2月現在、他校の学生1名を含み既卒者は4名、本校の学生19名、計23名である。

1) 学生指導の徹底、授業の充実を図る

昨年は専任3名、非常勤4名の教員体制で進めてきた。今年度から専任教員1名が産休のため、専任2名と非常勤7名の体制で教育を実施する。そのため、学生に不利益にならないように、一人ひとりの学生に関わりを多くする。学生指導について、教職員間の連携を図り効果的に進めていく。

授業は主に短期大学の教室を使用し、介護演習等の一部は5号館を使用する。

2) 同窓生への対応

改組2年目になるが、卒業生のつながりを大切にし、進路や相談等を継続していく。

3) 介護職員研修会

①卒後研修のあり方について、施設と連携を図り、内容等の企画を検討する。

②教員が高齢者施設等の研修会に講師として、出張などを行うことで施設の現状を理解し、自己研鑽に努める。

4) 介護技術講習会の充実

介護福祉士資格を働きながら取得するコースでは、介護福祉士の試験がある。それは筆記試験で合格した方が実技試験で合格することにより介護福祉士資格が得られる。だが、4日間の介護技術講習会の講習を受講することで実技試験が合格となる。本校も昨年実施してきたが、受講生の理解不足等があるため、適切な指導を心がけていきたい。

5) 市民大学の講師担当

介護や福祉について、地域住民の方々と話し合い、学びあう場を今年度も充実していきたい

4.キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、宗教部長、チャプレン、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2 チャペルアワー

毎週月曜日午前 10 時 40 分から 11 時 15 分のチャペルアワーを計画し、実施する。
※チャペル日程は、別紙「2011 年度チャペルアワー・礼拝日程」の通り。

3 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

1. イースター礼拝（4 月 25 日）
2. 創立記念礼拝（5 月 2 日）
3. 召天者記念礼拝（11 月 7 日）
4. ツリー点火祭（11 月 28 日）
5. クリスマス礼拝（12 月 19 日）
6. 卒業感謝礼拝（3 月 15 日）

4 クリスマスコンサート（子育てサロンはっぴいと共催）

子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

5 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設への支援

チャペルアワーとクリスマス礼拝で捧げられた献金を上記の活動の支援として寄付する。

6 学外研修会

新入生の入学後間もない時期に研修を実施する。ともに礼拝し二年間の学びの礎を築く。

7 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F)

聖書を中心にして、学生相互の交流と学生と教職員の交流を深める。

8 学生聖歌隊

定期的に練習しチャペルアワー、学内諸行事にて奉仕する。(指揮者山本美貴子)

9 「宗教部便り」の発行

宗教活動の報告、計画等の伝道のための文章などを載せた機関誌を発行する。

10 教会紹介

近隣教会及び教職員の所属教会を紹介する。また、「キリスト教概論」「キリスト教倫理」の授業と連携して、学生の教会出席を奨励する。

4 2011 年度の重点課題

1 チャペルアワーの充実

チャペルアワーの出席者を増やすことを目指し、出席しやすい雰囲気を作り参加呼びかけを積極的に行う。

2 キリスト教活動への学生参画

2010 年度より始めた学生の「チャペル・学外研修委員」を中心とした活動を充実させる。役割分担の明確化し、連絡・情報伝達体制を構築することで、①チャペルアワーでの役割分担、②クリスマス関連行事の企画・運営、③里子との交流の充実を図る。

3 キリスト教活動への学生参画の新たな取り組みの検討

学生主体のキリスト教活動を展開に向けて、**他学の取り組みの状況を参考にしながら**、本学の学生の状況に合った新たなキリスト教活動のあり方を模索し、取り入れを検討していく。

2011年度 礼拝・チャペルアワー日程

回数	月	日	曜日	特別礼拝等	備考
	3	31	木	2年始業礼拝	
	4	1	金	(入学式)	
1	4	11	月		
2	4	18	月		
3	4	25	月	イースター礼拝	
4	5	2	月	創立記念礼拝	
5	5	9	月		避難訓練 5/9 2年実習中 5/9～28
6	5	16	月		2年実習中
7	5	23	月		2年実習中
8	5	30	月		
9	6	6	月		
10	6	13	月		専攻科実習中 6/13～21
11	6	20	月		2年実習中 6/20～7/9
12	6	27	月		2年実習中
13	7	4	月		2年実習中
14	7	11	月		
15	7	25	月		
	9	1	木	専攻科始業礼拝	
	9	22	木	1年始業礼拝	2年実習中 9/12～29
	10	3	月	2年始業礼拝	
1	10	17	月		
2	10	31	月		
3	11	7	月	召天者記念礼拝	専攻科実習中 11/7～12/10
4	11	14	月		専攻科実習中
5	11	21	月		専攻科実習中
6	11	28	月	クリスマスツリー点火祭(アドベント礼拝①)	専攻科実習中
7	12	5	月	アドベント礼拝②	専攻科実習中
8	12	12	月	アドベント礼拝③	
9	12	19	月	クリスマス礼拝	
10	1	16	月		
11	1	23	月		
12	1	30	月		
	3	15	水	卒業・修了感謝礼拝	
	3	16	金	(卒業・修了証書、学位記授与式)	

5. 施設・設備経費関係

2011(平成23)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

(教員関係経費)

金額

11,726

研究費	児童福祉学科	単価		教員数		金額
○ 教授		270	×	3名		810
○ 特任教授		270	×	3		810
○ 准教授		260	×	7		1,820
○ 准教授		260	×	1	新任	260
○ 専任講師		250	×	3		750
○ 助教		50	×	2		100
○ 昇任対象者差額		10	×	2		20
○ 和泉特別研究費						600
○ 大学教育改革プログラム						500
				20	計	5,670
	専攻科	単価				
○ 専任講師		250	×	1名		250
○ 専任助教		200	×	2		400
○ 和泉特別研究費						200
				3	計	850
				22名	合計 (6,520)
教材費	○ 専任・非常勤教員					3,006
旅費交通費	○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回まで			22名		2,200

(施設)

32,923

建物	内容	設置場所	金額
○ ステンドグラス設置 (2ヶ所)	合計 10枚	和泉・クラークホール	2,835
○ ステンドグラス取り付け工事 (2ヶ所)		和泉・クラークホール	357
○ 教室改修 (キャリアデザインセンター)		旧103教室 新規	6,776
○ 空調設備 (研究室等)		2号館 取替更新	8,868
○ トイレ改修費		2号館 取替更新	12,804
電気設備 ○ 受電用真空遮断器		第1変電所 新規	678
電気設備 ○ 方向性地絡継電器取付		第2変電所 取替更新	294
		計 (32,612)
構築物	○ 地上デジタル放送対応アンテナ設置	1号館屋上	取替更新 311
		計 (311)

(設備)

10,686

教育研究用機器備品	内容	設置場所	金額
○ 下駄箱	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	345
○ 下駄箱	2 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	296
○ PCブース	6 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	739
○ 吊戸棚	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	258
○ 玩具・絵本棚	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	591
○ 戸棚	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	228
○ 書棚	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	295
○ 掃除具いれ	1 就業力支援	キャリアデザインセンター 新規	104
○ 出欠席管理カードリーダー (携帯用)	5	教育学習支援ユニット 新規	839
○ 出欠席管理サーバー	1	教育学習支援ユニット 新規	1,031
○ プロジェクター、スクリーン	1	300教室 新規	996
○ プロジェクター、スクリーン	1	204教室 取替更新	996
○ プロジェクター本体	1	205教室 取替更新	581
○ プロジェクター本体	1	4号館(A-2) 取替更新	581
○ 図面庫	4セット	美術準備室 新規	295
○ 赤ちゃん人形	2体	栄養実習室 新規	578
○ 冷水器	1	4号館 新規	252
○ 介護用ベッド	専攻科 1	5号館 取替更新	241
		計 (9,246)

図書	○ 児童福祉学科 1,400 専攻科 40		1,440
		計 (1,440)

2011(平成23)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

新規等の主な経費

	内 容	個 数	場 所		金 額
消 耗 品 費	○ 教室用電波時計	30		新 規	111
	○ 学生証(Suica/PASUMO付き)	全学生	1枚 @2.5	新 規	1,594
	○ 出欠席管理用ソフト			教育学習支援ユニット 新 規	2,471
	○ 出席管理システムサーバーラック			教育学習支援ユニット 新 規	125
	○ 教室遮光カーテン		204,205教室	新 規	73
	○ ガーデンテーブル・イス・ベンチ	5セット他	いこいの広場	取 替	651
	○ キャリアカルテファイル	300	就業力支援	新 規	336
	○ プリンタートナー、用紙他		就業力支援	新 規	619
	○ 研究室等サイン				179
				計 (6,159)
印 刷 費	ステンドグラス完成記念関係				
	○ ステンドグラス完成記念写真集	1,000	A4 28ページ	新 規	730
	○ ステンドグラス完成記念リーフレット	1,000	A4(両面)	新 規	172
	○ 写真集用封筒	1,000	角2	新 規	43
	○ ステンドグラス絵葉書 3枚組	1,000		新 規	95
			計 (1,040)	
通 信 費	○ リカント講座他案内状送料		就業力支援		1,080
	○ ステンドグラス完成記念展示会	12,000		新 規	719
			計 (1,799)	
維 持 修 繕 費	○ 出欠席管理用ソフト基本保守料			教育学習支援ユニット	594
	○ 引込高圧ケーブル			第一変電所	672
	○ ホームページ作成、保守料他				1,095
	○ 教室窓サッシ戸車交換	各教室	1号館		464
	○ エントランスの窓サッシ補修		1号館		242
	○ 外流し据え置き配管工事		1号館		144
	○ 教室床 排水溝ステンレスカバー他	104教室	1号館		363
	○ 廊下階段塗装壁工事(研究室除く)		2号館		3,147
	○ 食堂内壁、天井、柱塗装工事		3号館		887
	○ ホール2階 階段拡幅改修工事		3号館		1,418
	○ 教室ブラインド取替	A - 2	4号館		71
	○ アリーナ2階 手摺補強工事		4号館		1,092
				計 (10,189)
	支 払 報 酬 手 数 料	○ スクールバス委託運行費	@855.75 × 4台 × 12 M		
○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬					3,635
○ 管理人業務費、ボイラー運転業務費					8,258
○ 食堂委託管理費					2,400
○ 売店委託管理費					840
○ 5号館管理業務費					2,137
○ 教務・広報システム支援費					1,134
○ 耐震診断費(研究棟)			2号館	新 規	2,415
○ IT支援者派遣費他		各種講演者礼金	就業力支援	新 規	3,017
				計 (64,912)
賃 借 料	○ サーバー年間利用料	ポートフォリオシステム	就業力支援	新 規	1,202
	○ 防犯カメラシステム一式	本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他		1,000
	○ 教員用ノートパソコン	@18.4 × 19台	研究室		350
	○ コピー機、ファックス	事務局・研究棟	4台		497
	○ スクールバス駐車場	研究棟隣地	1,493m ²		2,400
	○ 借植木				417
	○ 公用車(軽自動車)リース料			新 規	358
				計 (6,224)

2011(平成23)年度 事業計画 予算

(単位:千円)

新規等の主な経費

	内 容	場 所	金 額
奨 学 費 (給 付)	○ 眞鍋記念奨学金	2名	@365(2年生後期授業料) 730
	○ 児童福祉奨学金	1年後期、2年(前後期)	@100×5名+ @100×3名×2 1,100
	○ 卒業生・在学生家族	10名	@50(入学金一部減免) 500
	○ 特待生制度入試(成績、修学支援)	5名	(1年生授業料) 1,825
	計 (
広 報 宣 伝 費	○ 入学案内書、大学広告他		25,556
	計 (
清 掃 費	○ 日常清掃、定期清掃	全 館	13,319
	○ 廊下 床汚れ剥離清掃	2号館	新 規 106
	○ 食堂床汚れ剥離清掃	3号館	新 規 140
	○ ホール床汚れ剥離清掃	3号館	新 規 127
	計 (
雑 費	○ 既存空調機処分費	2号館	588
	○ 一般・産業廃棄物処理費		950
	○ ステンドグラス完成記念展示会会場費他	諸費用	銀座教会 新 規 1,332
	計 (
既存建物撤去費	○ 既存トイレ、空調機撤去費他	2号館	2,620
	※ 就業力支援関係経費総額	保育就業力向上推進プログラム	16,656
	ステンドグラス完成記念関係	学園50周年記念事業	3,091